



みせん

瀬戸内海国立公園

宮島地区パーク

ボランティアの会

第51号

発行日

平成 25年 3月 1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| P2 PV の会 臨時総会 | P7 魅力発見観音山（極楽寺）自然と歴史トレッキング講座 |
| P3 よろしく（新役員・幹事の抱負） | P8 冬鳥観察 in 八幡川 |
| P4 弥山登山道清掃作業 | P9 宮島二流記 その14 |
| パークボランティア研修会 | P10 北アルプスのボランティア女子大生 |
| P5 ラムサール条約登録記念フォーラム | 新春弥山登山 |
| 宮島「弥山展望台」ありがとうイベントに参加して | P11 新発見その① コオニヤンマ |
| P6 入浜定点観測⑧及び維持管理作業 | 新発見その② 新たな町石を奥ノ院で発見 |



弥山々頂の展望台

幾多の観光客や登山者を迎えてきた展望台が建て替えられることになりました。

私ごときの登山回数では、思い出というほどのことはないのですが、それでも6年ほど前、同窓会のオプションとして弥山登山を計画し、私が担ぎ上げた缶ビールで乾杯し、喜ばれた記憶があります。

今秋には、瀬戸内海を庭園に見立て、座って景色を楽しむ「縁側」感覚が得られるようです。

4月6日(土) 総会

平成25年度PVの会・定期総会を下記の要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日時 4月6日(土) 10:00~12:00
(受付 9:30~)

場所 宮島杉之浦市民センター(公民館)

※欠席の人は委任状を提出してください

※午後から小なきり浜の観察会・清掃活動と

入浜定点観測①を実施します

PVの会 臨時総会・役員改選

PVの会では、昨年12月1日（土）宮島市民センターに於いて、臨時総会を開催しました。会員総数55名中、出席会員36名、委任状提出者10名でした。

出席会員 足立 池田 岩崎 大西 小方ペア 小川 奥田 恩田 菊村 北野 五石
 小林ペア 小林（寛）佐伯 坂本 佐藤（佐）佐藤（庸）渋谷 島 末原 田中 兎谷
 中道 錦織 野呂田 平田（広）檜和田 舛田 松尾 村上 柳瀬 山崎 横路 呼坂
 環境省 椅自然保護官 柴原自然保護官 大高下 AR

1. 臨時総会関連

- (1) 9:30 全体打ち合わせ
- (2) 10:00 部会打ち合わせ

部会ごとに集まり、平成25年度の活動計画の意見交換、任期満了に伴う幹事の選出を行った。新たに観察部会から呼坂さん、環境整備部会から小林（寛）さん、広報部会から平田（広）（転籍）が選出され、幹事は16名の体制となりました。

(3) 10:30 臨時幹事会

幹事の中から互選で、新役員・監査員の選出を行った。新たに副会長に岩崎さん、会計に舛田さん、広報部会長に平田（広）、監査員に足立さんが選ばれました。

(4) 11:00 臨時総会

榎自然保護官からの挨拶では、宮島の海岸の一部がラムサール条約に登録、ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会に当PVがオブザーバー参加することが認められたことや茗渓会顕彰（「みせん50号」に記載）について話された。また村上会長の挨拶では、改めて当会の社会的評価が全国的になったことを指摘された。

次いで議事に入り各部会長から今までの活動状況についての報告があった。

引き続き役員改選については、総会前の臨時幹事会で互選された原案どおり、異議なく承認された。

「幹事」

観察部会 小林 勇（部会長）
 小川加代 北野孝幸 中道勉
 舛田祐子 村上光春 呼坂達夫
 環境整備部会 末原義秋（部会長）
 川崎昭壽 小林寛致 佐藤佐十四
 佐藤庸夫 島 千代喜
 広報部会 平田広三郎（部会長：新任）

足立 清 岩崎義一

「役員」

会長 村上光春

副会長 末原義秋 岩崎義一（新任）

会計 舛田祐子（新任）

「監査員」 足立 清（新任）

※任期は役員・幹事・監査員とも2年

※新役員・幹事の抱負は3・4ページに

2. 研修会

広報部会主催分は諸般の事情により中止
 環境省主催分は平成25年2月16日に開催、報告は4ページに登載。

3. 年末懇親会 12:30～

環境省の方を交え、有志22名あまり、恒例の「山村茶屋」にて牡蠣バーベキューで年忘れの懇親を図った。しかし今年は昼食を兼ねていたためか、「アナゴ丼」の注文がたくさんあり少し赤字だったようです。



牡蠣を囲んで

『臨時総会』について

この時期に開催する「臨時総会」は会則第5条に則り、主に役員等（任期2年）を選任するためです。またこの時期に行うのは、来年度の活動計画を新役員等が纏め計画を確実に実行するためです。新役員等が活動するのは翌年1月からです。翌年の年末は「会員の集い」となります。

よろしく

新役員・幹事の抱負

会長 村上 光春

引き続き会長の役を担わせていただきます。よろしくお願ひ致します。これからも、宮島の素晴らしい自然・文化・歴史を楽しみながら、地域に調和したボランティア活動を、身の丈に合わせて進めていきたいと思います。

副会長・環境整備部会長 末原 義秋

本年は、弥山展望台も建替えられます。引き続き宮島の自然・景観の保全に努めて行きたいと思います。

副会長 岩崎 義一 (新任)

会発足時からの会員であり今までに多くの行事に係わってきたことから、此の度副会長を引き受けることになりました。

会長を補佐し、会の運営がスムーズに行くよう努めて参ります。「みせん」も 50 号を越えましたが、良いことは継続して反対にマンネリは打破して新しいことも考えていきたいと思います。

そのためにも会員の皆さんの積極的な参加が必要です。よろしくお願ひいたします。

観察部会長 小林 勇

自然の素晴らしさと文化、歴史の深さとを教えていただいた宮島になにも恩返しもできておらず、また 次の任期まで務めさせていただくになりました。皆様のご指導ご協力をより一層お願いします。



広報部会長 平田 広三郎 (新任)

この年になっての大役、皆様の協力を得ながら務めさせていただきます。なによりも早く次を担える方を見つけ、バトンタッチすることが一番の仕事と心得ています。

会計 弁田 祐子 (新任)

今年度から会計を担当させていただくことになりました。皆様に助けていただきながら、気を引き締めて頑張ります。これからもよろしくお願ひいたします。

監査員 足立 清 (新任)

このところ体力、忍耐力の衰えが著しく十分なる活動はできませんが、少しでも皆さんのお役にたてればと思っています。

幹事 小川 加代

何やかやと仕事・私事で多忙になり、土曜日の幹事会も欠席しがちとなりました。できるところでお手伝いさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。

幹事 川崎 昭壽

本年度から監査員は退任させていただきましたが、引き続き環境整備部会の幹事を続けることになりました。皆様と一緒に宮島の美化のために、少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願ひします。

幹事 北野 孝幸

宮島は世界遺産に続き、昨年ラムサール条約登録などで訪れる観光客も年々増加しています。

さらにエコツアーというキーワードも注目されています。従って当会の活動は更に重要視されることだと思います。このような大事な時期ではありますが、幹事という大役を引き受けさせていただきます。以前にもまして会員の皆様のご協力を頂きながら邁進したいと思います。

幹事 小林 寛致 (新任)

入会後約 1 年ですが、非常にバイタリティのある集団と感じています。(足だけは引っ張るま～でと心しています。)

ラムサール条約登録もあり、当会の役割も増すものと思われます。まだ見ぬミヤジマトンボのためにも誠心誠意取り組みたいと思いますので、よろしくお願ひします。

(次ページへ続く)

幹事 佐藤 佐千四

幹事 2 期目ですが、会の発展に、余り役だっているとは思えません。もう少し役立てるよう頑張ります。

幹事 佐藤 庸夫

活動内容はほとんど好きなことばかり。メンバーも好奇心旺盛な人ばかり。宮島は、自然も歴史もまだまだいっぱい知りたいことばかり。ただ、なかなか参加できなくて、いつも申し訳ないと思っています。新たな気持ちで、これからも頑張りたく、よろしくお願いします。

幹事 島 千代喜

幹事としてがんばります。よろしく！

幹事 中道 勉

会員意識向上のための研修発表会制度について

会員が過去知り得ている特異な事柄や会員になって知り得た知識（例えば宮島の行事や暮らしに関わった自然界の動植物など）また最近感動した出来事などを最小限にまとめて会員に発表する制度が実現すれば写真撮影や年中行事などに帶同し全面的に応援したい。

幹事 呼坂 達夫（新任）

宮島生まれで宮島育ちの私です。宮島との関わりは 63 年です、そのうち宮島水族館を長年勤務し、退職してはや 3 年が経ちました。齡と共に宮島の良さをより深く感じています。

宮島は歴史文化も世界に誇るものですが、私は宮島の自然の豊かさが好きです。島全体の景観の良さと宮島の植物・海辺の磯や干潟の生き物・海藻の繁茂などが魅力です。

宮島の自然を通して生物多様性の意義を皆さんと楽しみ考え、未来ある子供たちと共にこの宮島の保存活動のささやかな手助けの活動になればと思っています。

弥山登山道清掃作業

日 時：12 月 8 日（土）9：00～15：00

参加者：大西 小方ペア 奥田 川崎

菊村 黒木 小林ペア 末原 錦織

野呂田 平田（広）村上 山崎 横路

六重部

環境省 柴原自然保護官

当日は、先週の日曜日に続いて雪が少しちらつく寒い日でした。2 週も続けて雪に遭うとは PV 始まって以来のことです。

清掃するルートは、例年どおりロープウェー終着の獅子岩から弥山々頂（昼食）、午後は大聖院ルートを下る。石階段の上にあった泥は去年に較べて少ないようでした。また 下る途中 14 時 30 分以降に会った登山者には先日の遭難事故のこと話し、早い時間に下山するよう声をかけた。



清掃道具を持ってハイポーズ

（文：平田 広三郎 写真：川崎 昭壽）

『パークボランティア研修会』

日 時：2 月 16 日（土）14：00～17：00

場 所：広島市まちづくり市民交流プラザ

主 催：環境省中国四国地方環境事務所

出席者：池田 岩崎 大西 小方ペア 小川

奥田 恩田 金山 川崎 河村 北野 黒木

五石 小林ペア 小林（寛）佐渡 佐藤（佐）

佐藤（庸）末原 兎谷 中道 野呂田

平田（広）檜和田 舛田 松尾 松田

宮本 村上 山崎 山本 横路 六重部

研修は「平成 24 年度中国四国地区自然公園指導員及び宮島地区パークボランティア合同研修」として行われました。

事務所の挨拶（情報交換や知識の増強のための研修）や自然公園・最近の自然保護行政、広島県からは自然公園施策等の説明があった。

講義は「自然を見る、愛でる、体験して学ぶ」と題して、西村仁志氏（広島修道大学）が、IP（インタープリテーション）をベースに自然とふれあう大切さを強調された。

意見交換会は、指導員グループと別れて、PV グループは西村准教授との活発な質疑応答でした。 （文：平田 広三郎）

ラムサール条約

登録記念フォーラム

日 時：11月 23日（金）13：00～18：30

場 所：宮島小学校

主 催：ラムサール条約登録式典・記念

フォーラム実行委員会（廿日市市）

フォーラムは、①基調講演 ②パネルディスカッション ③クルージングの3部構成で行われた。



基調講演では、(1) 森重昌之氏（阪南大学）が「ラムサール条約登録地の環境資源の保全とエコツーリズム活動」と題して、保護（さわらない）と保全（人による維持）の意義、観光・地域振興（エコツーリズム）や観光資源化のプロセスを話され、エコツーリズム活動の条件として①地域の人の係わり②観光客の持つ知識の活用③地域プラットフォームの設置が必要とのことでした。

(2) 坂本充氏（ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会会长）が「ミヤジマトンボ 宮島に生き残ったわけ」について、減少要因として大型台風による生息地の破壊、流水路破壊に伴う環境悪化や湿地のアオサの腐敗による水質悪化・淡水化などを上げられ、協議会としては湿地の保全・改善・代替地を設けていることを報告された。

パネルディスカッション「ラムサール条約登録による宮島の環境管理と賢い活用に向けて」では、各パネラーが各々の専門分野について発言された。特にフンク・カロリン氏（広島大学、ドイツ人女性）は、外国人の宮島観光について研究されているのには驚かされました。そのほかのパネラー等の方は、上嶋英樹氏（広島工業大学）、関太郎氏（元広島大学）、庫本（くらもと）正

氏（秋吉台科学博物館）、水谷知生氏（環境省中国四国地方環境事務所長）でした。

今回登録された宮島の湿地は、「基準2」と「基準9」で登録されている。日本の登録地46箇所のうち「基準9」が含まれるのは宮島のみで、ミヤジマトンボの存在があることが理由のようです。しかし条約が求めている「保全・再生」・「賢明な利用」・「交流・学習」の三つの目標には均等性が要求されてないと思われますので、今後の湿地の管理については、各目標に地域の特性を考慮して「軽重」を付けた対応が必要と感じられます。そういう意味で非常に注目される登録と考えていいと思います。

クルージングは、夕闇迫る中フェリーで島南部を海上から登録地周辺の見学でした。船中ではパネラーの先生方が「宮島パークボランティアの会」の湿地維持に対する貢献が大であることを強調されました。

寒い中 会場には多数の会員の姿が見受けられました。 （文：平田 広三郎）

宮島「弥山展望台」

ありがとうイベントに参加して

日 時：12月 2日（日）9：00～15：00

場 所：弥山登山と宮島桟橋広場

主 催：大河ドラマ「平清盛」

廿日市市推進協議会

参加者：岩崎 小方（嗣）川崎 北野

小林ペア 坂本 末原 兎谷 野呂田

平田（攻）平田（広）山崎 横路 六重部
県・廿日市市 3人 一般参加 8人

いよいよ今月の「弥山展望台」（昭和39年建設）が建て替えられることになり、長年弥山登山者に愛されてきた展望台に対して、撤去工事の開始前に、感謝するイベントが開催されました。イベントには弥山ツアーフェスティバル（登山）と弥山紹介ステージが計画され、当会にはツアーフェスティバルに付随する弥山の植物案内（下り大聖院コース）への協力を要請され参加しました。当日の気象は、地上はみぞれ、山頂は雪でした。特に昼食は吹雪の中での食事（思い出になりました）。それでも全員が14時開始のステージに間に合うよう無事帰着しました。（次ページに続く）

(6)

ステージでは、「紙芝居「カラス夫婦と南禅寺の豆腐」や「ひろしま清盛美少女隊」の公演がありました。



寒い中での参加者たち

足を引きつらせた時に、念のため漢方薬「芍薬甘草湯」を持参しましたが、人によつては「むくみや発疹が出る場合」があり、事前に告知しておく必要があります。

(文: 平田 広三郎 写真: 岩崎 義一)

入浜定点観測⑧^⑧ 及び維持管理作業

日 時 2月9日 9:00~13:00

天 候 晴

参加者 岩崎 大西 小方(嗣) 小川 川崎
黒木 小林ペア 佐藤(佐) 末原 兎谷 中道
野呂田 平田(広) 檜和田 村上 山崎 吉崎
六重部

「かき祭」や高校生のマラソン大会で賑わっている宮島桟橋前をあとにタクシー等に分乗し、入浜に向かいました。入浜池に着いて全員びっくり！何と苦労して積み上げた土のうが無残にも壊れ、水路を塞いでいたのです。



水路に崩壊した土のう

みせん

作業前のミニティーニングもそこに急速に修復にとりかかりました。1時間程度で池の水が流れ始めました。海につながる海水出入口付近には砂が堆積して、満潮にもかかわらず、海水の出入りはありませんでした。以後、いつものように観測、調査、清掃を行いました。

(文: 写真 川崎 昭壽)

【水質調査】: 小川 加代

池奥の塩分濃度0.04%、池出口の塩分濃度0.7%、池の水温3.1°C、海水温度9.7°C

【植物観察】: 六重部 篤志

池の海側の道路沿いのマツが松枯れを起こしている他は特に変化はない。

【鳥類観察】: 大西 順子 (文・写真)

観察できた鳥の種は、次の14種です。

トビ、ミサゴ、ノスリ、ヤマガラ、ウソ、イソヒヨドリ、アオジ、ホオジロ、シロハラ、ジョウビタキ、カルガモ、アオサギ、メジロ、ハシボソガラス

ウソですが、今日の種は特に「亜種アカウソ」でした。お腹まで紅色が広がっていました。

また、最後に充分に観察できたヤマガラの写真も添付します。可愛い鳥ですよね。

以前の「宮島町の鳥」でした。



亜種ヤマガラ



ヤマガラ



瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会
事務局: 環境省 中国四国地方環境事務所
広島事務所
〒(730-0012) 広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階
TEL 082-223-7450・FAX 082-211-0455

『魅力発見 観音山(極楽寺)

自然と歴史のトレッキング』講座

日 時：11月 24日（土）9：00～15：00

場 所：観音山（極楽寺山）

主 催：観音台公民館

参加者：岩崎 大西 小方ペア 菊村 北野 小林ペア 小林（寛）坂本 村上

一般参加 14名 公民館長 テレビ撮影クルー 2名

極楽寺山は、瀬戸内海国立公園の一部と聞き今回参加してみました。（初めて登る山）

一般参加にも初めての方がいましたが、なんと 100 回もこの山に通い詰めた岩崎さんは
拍手もんです。（パチ、パチ。今日が 101 回目だそうです。）

ところで今日は秋のトレッキングということで、紅葉ネタ炸裂で書きます。

観音台コースの登りは町石のお出迎えがあり、極楽寺までの道のりは

何と江戸時代の参道！109m 刻みで 13 町石のご案内するコースだそうです。

これは水戸の黄門様も歩かれたのでは？と思い、印籠が落ちてないか探しましたが、
そんな大それた物は落ちていませんでした。

（受験生には落ちない紅葉がお守りとして重宝するそうで、落ちた印籠なんて
価値なかもしれません。）

自然探索は紅葉シーズン真っ盛りであり、日の当たり加減できれいな紅葉を
演出していました。

この日当たりが葉を赤く染めていくのか、黄色に留めるのか、

自然が作り出す芸術であることをこの日のミニ講座で習いました。

また自然観察のお手本として、金子みすゞさんの詩の紹介があり、

その感性の鋭さに感銘を受けました。

“草の名”という題名の詩では、誰かがつけた草の名前にこだわることなく、
自分がつけたオリジナルな名前で親しめばよい。

本当の名前を知っているのは空のお日さまばかりなのよ。と読まれていました。

植物の名前がなかなか頭に入らない私にとって、自然界のハードルが一気に下がり、
さらに自然が身近なものとなりました。

世間一般的の自然に関心のない方もきっと同じであろうから、

ハードルを下げて自然界に飛び込んで、さらに身近に感じてほしいと思いました。
そしてもう一つ詩の紹介がありました。こちらは短い詩なので全文掲載します。

“土と草”

母さん知らぬ草の子を、
なん千万の草の子を、
土は一人で育てます。
草があおあお茂ったら、
土はかくれてしまうのに。

こんな自然観察の仕方があったのか！

土の偉大さが感じられます。母なる土の寛容さが伝わります。感動——です。

本日のミニ講座の中で、「紅葉するはどうしてでしょう？」の問い合わせがありました。

「老化現象のため」「人を楽しませるため」・・・確かに。（次ページに続く）

でも私はここに、「親孝行のため」を付け加えたいとおもいます。

落ち葉は、冬の寒さから母なる土を守るため、ふかふかの装いになっている。ってのはどうでしょうか。

それも単一色でなく色どりを添えて。

なんだか一人でほのぼのとしてきました。

これが本当の自然観察なのでしょうね。

今日の講師の方々本当にありがとうございました。

(文: 小林 寛致)

(文章は、筆者の意図と気持ちを大事にして紙面を少しそれぞれいたくに使いました。)



(それでも講師の方の迫力はすごいですね！ お名前は？ 本行事は広島ケーブルテレビ「ふれあいチャンネル」で、12月6日放送されました。 写真: 小林 寛致)

“冬鳥観察 IN 八幡川”

日 時: 2月 16日 (土) 8:30~12:00

場 所: 八幡川河口・人工干潟・埋立地内

講 師: 日比野 政彦 (日本野鳥の会広島県支部理事、日本鳥類保護連盟副支部長)

出席者: 足立 岩崎 大西 小川 奥田

金山 川崎 北野 黒木 小林ペア

小林(寛) 佐渡 佐藤(佐) 佐藤(庸) 末原

田中 穂谷 中道 錦織 野呂田 平田(広)

檜和田 弁田 松田 宮本 村上 柳瀬

横路 吉崎

都合により予定より1ヶ月遅れの実施となつたため参加状況を気にしていたが、多くの参加者を得て、盛会な観察会であった。

八幡川は、広島市西区と佐伯区の間にあり、西部商工センターのすぐ近くに位置している。昔は自然干潟があり埋め立て後は人工干潟を作つてできるだけ自然を残そうと努力されている。

その甲斐があつて、都会のすぐそばにありながらも、水鳥を中心にして鳥が立ち寄ってくれる場所となっている。冬は特に水鳥が多く、観察に適していると言える。ただ、近年河口の西隣の長期に放置されていた埋め立て地が団地として整備が進む中で、一部は水鳥公園として現状維持で残すように「野鳥の会」が提案して、県と「野鳥の会」で検討が重られ

ている。

この度は、野鳥を見るだけの単なる探鳥会でなく、現在の課題であるカワウの大量の増加が漁業に及ぼす影響や集団でのねぐらが樹木に及ぼす影響などの問題やその対処方法の説明があった。八幡川人工干潟の造成の歴史やその特殊な構造について、それが人工干潟を守るためにわざわざ考えられた形だったことなど、その当時の経緯に関わった方ならではの説明もあった。また埋めた地内の広い葦原がツバメのねぐらの役割を果たしており、なくてはならない葦原となっていること、一方 廿日市市街地で永年続いていた電線を利用した都市型ねぐらが突然消えてしまったことなど、広い範囲の解説を聞くことができた。

環境省の「宮島パークボランティアの会」であることを意識された解説は、メンバーにとっては得難い知識を得る絶好の機会であったと思われる。

幅広く長年の調査・記録をされている講師を迎えての観察会は、皆の期待に応えることが出来たのではないだろうか。

そのような変化して行く環境の中で、この先どのような工夫のもとに鳥たちがどのように対応できるのか、関心を持って見守つて行きたい。【観測できた鳥】は 11 ページ参照

(文: 大西 順子)

宮島二流記 (その 14)

平田 広三郎

Q14:「蓬萊（岩）のいわれとはどのようなものでしょうか？」

宮島の北東、聖（ひじり）崎を離れた海中に屹立する蓬萊岩は、とくに「徐福伝説」との係わりが強調されますが、蓬萊の言い伝えの意味を探ってみます。

A14:「いろんな解釈ができそうです。」

「植物」「厳島図会（天保 15 年・1835 刊）」「徐福伝説」の 3 つのキーワードを基に話を進めていきます。

「植物」の蓬は「ヨモギ」、萊は「アカザ」です。ヨモギは食用や漢方薬特に灸（きゅう）のモグサに用いられ、秋には 40cm ぐらいの直立した草木となります。アカザは中国原産の食用植物で、高さ 1m ぐらいまで直立して成長します。いずれも直立した比較的高い草木です。

清盛が厳島神社に奉納した「平家納経」の願文の五～八行目には、「・・安芸国伊都伎嶋大明神 名、・・、謂基靈勝 則如雲蓬露萊之、・・」とあり、雲露と蓬萊に分けると、僧：空海が高野山にある天を衝く自然林を見て言った、「山（ここでは高い木）高きときは雲雨物を潤す」にも相通じます。

従って、海に直立し切り立っている蓬萊岩の表現に合っています。

「厳島図会」の「蓬萊巖（いわ）」では蓬萊山と蓬萊に分け、蓬萊山については作られたような容姿が長澤蘆雪（1754～1799：蓬萊山図 1794 作）などが描いたものに似たりと言い、蓬萊については三・四月の頃に現れ、「宮殿樓閣の象（かた：姿）ありて・・近世橋南谿（なんけい：実在）が著せる西遊記に、安芸国に蜃樓（しんろう）ありといえるのは是をいう・・」と記し、聖崎を背景に蓬萊岩を宮殿の柱に見立て、上部の宮殿は霧に隠れる様を言っています。

また 同図会「抓島（つくねがしま）」の「湯蓋道空」について、厳島大明神を熱心に信仰する五日市海老山の漁師夫婦が、ある時島の沖に蓬萊浮き出て道空の漁船に金（こがね）の砂（すなご）を汲み入れ家栄え、客人宮を修造したとあり、両記述とも

蓬萊を霧として扱っています。

厳島神社の御祭神に勧請した宗像三女神が「天照大神と須佐之男命の誓約（うけひ：重要な約束）の際、天照大神が十拳劍（とつかのつるぎ）を噛み砕き、吹き出した息の霧から生まれた」とされていることなどから何かの奇縁を感じさせられます。

「徐福伝説」とは、中国の秦の時代（紀元前 3 世紀頃）に徐福と言う方士（神仙思想の行者）が、秦の始皇帝に「東方の三神山（蓬萊・方丈・瀛州：えいしゅう）に不老不死の靈薬がある」とい、命を受け 3000 人の童男童女（若い男女）と百工（多くの技術者）を従え、五穀の種を持って船出した」という、司馬遷の「史記」によるものです。「史記」は早くから日本に伝わっていたと見え、中国へ派遣された遣隋使・遣唐使達が盛んに徐福の話を聞いたため、逆に中國の人達が再認識し、明（14～17 世紀）の始祖・洪武帝までが「昔、仙薬求めて東方に向かった徐福、今に到るも帰らず」と信じる始末。もともと蓬萊山そのものが、山東の海にたつ蜃氣楼を夢見て思い描いた中国人の虚構なのでしょう。そうは言え中國の東方と言えば日本、従って日本各地には「徐福伝説」が数多く残されていますが、宮島に寄ったかどうか。

結局 蓬萊（岩）とは、深山幽谷にそびえ立つ高い岩にたなびく霧を組み合わせた、山水画的蓬萊山に見立てたのが真相でしょう。

また 厳島神社の正月元旦の行事のうち謹製した「御衣」を御祭神に献上する「神衣献上式」について、「厳島道芝記（元禄 15 年・1702 刊）」によれば、御衣を奉った後御蓬萊・御神酒を奉るとあり、神社では古くから蓬萊が使われていたようです。

現在の地質学で言えば、蓬萊岩は「コアストーン（露出しているブロック化した岩塊）」と言い、約 50 年周期で起きる震度 5 の芸予地震にも耐えた花崗岩柱です。

次回 Q15 は「聖（ひじり）崎のいわれとはどのようなものでしょうか？」です。

*参考文献

・「熊野まんだら街道」 神坂次郎
新潮文庫 平成 16 年

投稿コーナー

北アルプスのボランティア女子大生

岩崎 義一

私は十年ほど前から夏にはアルプスなどの登山に出かけている。昨年夏 高山から入り鷲羽岳・水晶岳を縦走し雲ノ平を経由して富山に抜ける途中、太郎平小屋の辺りでのこと。

赤いお揃いのシャツを着た二人の若い女性が登山道のゴミを拾っている。感心しながら声をかける。「宮島でパークボランティアをやっているのですよ。」と話すと、「お仲間ですね」と嬉しい返事。



彼女たちは、富山県森林組合の夏季だけのボランティアの女子大生とのこと。街から8時間も離れた標高2300mの山小屋に一週間づつの泊り込みで活動している。

全国いたるところで、我々と同じように環境を守るために地道に活動している人が、特に若い女性が係わっていることに、嬉しくなった一コマでした。

投稿原稿募集

【編集担当：昨年のアンケートを検討した結果、PV行事以外の投稿記事をも募集していくこうということになりました。確かに若い号の原稿を見てみると、趣味あり、旅行記あり、その他諸々の記事が登載されていました。「みせん」の編集も少しマンネリ化したのかなあと反省しています。リフレッシュするためにも、ぜひ皆さんの投稿をお願いします。その第一号が岩崎会員の本原稿です。】

新春弥山登山

日 時 1月12日(土) 9:00~14:00

参加者 岩崎 小方(嗣) 川崎 菊村
北野 黒木 小林ペア 小林(寛) 佐渡
佐藤(佐) 兎谷 錦織 野呂田 平田(攻)
平田(広) 山崎 吉崎

環境省 椅自然保護官

当日は青空が広がり新春登山にふさわしい小春日和の天気に恵まれた。本日のリーダーは小林部会長の指名により山崎会員です。気持ちよく引き受けられたので感激。登山は堰堤を流れる水も澄みきっていつになく美しく感じられた。昼食は展望台で、弥山本堂様から参加者全員にふるまわれたお神酒を早速少々いただきました。



取り壊し中の展望台の前

下山は大聖院コースで所々凍結しており慎重を要したが、全員無事に下山。

今回の登山で特記すべきは何と言っても山崎さんの名リーダー振りだろう。大きなリュックを背負って先頭を歩きながら要所々を案内し、疲れを知らない丁寧な説明・解説が続く、まさに“弥山の生き字引”だ。アナグマの巣、マメツタランの生息岩

(旧道) や山崎さん自ら命名の「弥山の奥座敷」の三つの大岩は圧巻だった。「弥山の奥座敷」は大変居心地の良いひろびろとしたところで、展望台が混んでいた時には、今日の昼食場所の第二候補地にしていたとの事であった。途中 山崎さんより明13日

(日) 午後6時、BS日テレの「森人」に出演するのでぜひ見てほしい旨の話があった。下山終了間際の砂防堰堤付近の「氷柱」とサカキカズラの実の案内はうれしい追加サービスでした。ありがとうございました。

(文: 黒木 隆信 写真: 川崎 昭壽)

・・新発見・・(その①)

入浜地で確認された35種目のトンボ

・・コオニヤンマ・・

コオニヤンマは、河川や水路に棲む流水性のサナエトンボの仲間です。日本産の同科中最大の種で、オニヤンマのような風格から名付けられたようです。広島県では、初夏から秋口にかけて各地の川沿いで普通に見られ、宮島でも記録はありますが、入浜ではこれまで確認されてきませんでした。



入浜地に姿を現したコオニヤンマ

7月21日の成虫ラインセンサス調査において、池から出口水路あたりを行き来するオスを見つけるのが最初の確認となりました。同じ水路脇の岩の上で静止するメスを見つけて上記写真のように収めました。

今年はまとまった雨が多く、池に注ぐ山水が豊富なことがこのような流水性種の進入に繋がっていると考えられます。

ふと 山側の池端をみると地表水が常に流れ込むとともに、一旦 地下を伏流し湧き出ているところも散見されます。ひょっとすると、あの種も・・・という期待を抱かせる今夏の入浜地です。次の調査が楽しみです。 (文・写真 松田 賢)

・・新発見・・(その②)

新たな町石を 奥ノ院で発見

町石の調査は一応完了したと考えていたが、会員の山崎さんが新たに見つけ出してくれました。

場所は奥ノ院の少し手前、旧道ではなく多々良への車道の脇に入ったところ、木に埋もれ台座からは倒れている。

形態は、江戸初期のもの、残念ながら建立時期や「〇〇丁」を示す文字は読み取れない。位置も奥ノ院二十八丁と二十七丁とは異なる場所、おそらく台座があることから別の場所にあったものが石仏として祀られたものと思われる。この辺りは何度も探索したつもりでしたが、車道側とは意外でした。



新発見の奥ノ院の町石

まだまだ失われた町石が発見される期待が持てそうです。なにはともあれ 発見者の山崎さんに拍手です。

倒れたままになっているので、整備する必要があります。(文・写真: 岩崎 義一)

— 以下8ページから続く —

【観測できた鳥】

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ
ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ
ホオジロガモ ウミアイサ カンムリカイツブリ キジバト カワウ アオサギ
コサギ ユリカモメ ウミネコ カモメ
セグロカモメ ミサゴ トビ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ
ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ホオジロ オオジュリン 計35種

◇ 編集後記 ◇

宮島の山が荒れているそうです。インターネットでパワースポットを求めて一人で入山。踏み荒らし、伐採、拳銃の果てには遭難騒ぎ。なんとかしたいものです。 (平田広)